

調査概要

I 年間調査テーマの選定理由

令和元年12月、国は令和の学びのスタンダードとして、GIGAスクール構想の実現に向けた方針を明示した。

これを受け、本市においても構想の実現に向け、各種施策展開が行われているところである。とりわけ、構想の実現に不可欠である学習用端末に関しては、令和3年度から小中特別支援学校の全児童生徒に1人1台貸与されたところであり、学習者用端末の有効活用により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとともに、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すための効果的な施策展開の研究、実施が日々行われている。

また、令和3年第1回定例会予算審査特別委員会教育未来分科会においても、「スクール・サポート・スタッフや、ICT支援員など各種専門職員の配置については、教職員の負担軽減や児童生徒の学習環境の質の向上に資することから、引き続き、必要な人材確保に努めるとともに、配置による効果検証を適切に行うことにより、学校現場のニーズに応じた配置の最適化を図られたい。」との指摘要望事項を市長へ送付しており、教職員の負担軽減策に加え、児童生徒に対する学習環境の向上のためのさらなる取組が求められている。

加えて、学校教育現場においては、不登校対策も大きな課題であり、不登校となる要因が複雑・多様化し、不登校児童生徒の若年化が社会問題となるなど、早期対応が求められている。

本市においても、各区にライトポートを設置するなど、支援体制を整備し、学校不登校児童生徒に対する各種取組が図られているところである。

そこで当委員会は、委員間での協議の結果、今期の所管事務調査に係る年間調査テーマを「学校教育環境の充実を図る取組について【教育センター】」に設定し、喫緊の課題である「GIGAスクール構想に向けた学校のICT教育について」と「学校不登校について」の2項目に焦点を当て、本施策展開を行う中核的組織である教育センターの取組を中心に調査を行うこととした。

II 調査の概要

1 本市の現状調査

(1) 座学による調査（当局からの説明を聴取）

令和3年8月19日、教育センターの取組概要及び学校不登校について調査した。

〈詳細は委員会記録参照〉

調査目的	今期の年間調査テーマの主体である教育センターは、今年に設立50年を迎えるため、設立当初や時代の変遷による役割・機能の変化を確認するとともに、課題や今後の在り方等について考察を深める。 また、今期調査項目の1つである「学校不登校」について、本市における課題の特徴や今後の対策等について当局から説明を聴取し、課題解決に向けた方策の検討を行う。
調査項目	1 教育センターの事業概要 (1) 教育研究事業 (2) 教職員研修事業 (3) 教育相談事業 (4) 情報教育・教育広報事業 2 千葉市の不登校対策について (1) 不登校についての調査 (2) 千葉市不登校児童生徒支援体制 (3) 教育センター適応相談事業 (4) 成果 (5) 現在の課題と今後の検討すべき事項

(2) 現地視察及び当局からの説明聴取による調査

令和3年10月26日、教育センターの現地視察を行うとともに、本市の教育のICT化推進に向けた取組について調査した。

〈詳細は視察報告書を参照〉

調査目的	<p>1 教育センター各諸室の活用状況について 現在の教育センター施設は昭和59年に開設し、これまで教育関係職員の研修や教育相談等の学校教育及び社会教育に資する活動のために利活用されている。日々教育環境が変化する中で、現在各諸室の活用状況を調査することにより、施設の老朽化が進み、新たな施設として整備する際に必要となる機能について考察する。</p> <p>2 教育のICT化推進に向けた取組みについて GIGAスクール構想に伴い、市内小中学校の児童生徒への1人1台のタブレット端末の配布が完了し、当該タブレット端末（通称：ギガタブ）を活用した授業展開が今年度から本格運用されている。 ICT研究協力校に指定した小中学校を中心にICT教育の充実・推進に取り組んでいるため、活用状況と今後の展開について調査するとともに、委員が実際にギガタブを使用し、今後の教育現場における活用方法の研究を行う。</p>
調査項目	<p>1 教育センター各署室の活用状況について（現地視察） 2 教育のICT化推進に向けた取組みについて</p>
現地視察の様子	<p>1 教育センター各署室の活用状況について</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【教育研究物の閲覧・調査】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【教育関連図書の説明を聴取】</p> </div> </div> <p>2 教育のICT化推進に向けた取組みについて</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【本市ICT教育に係る説明の聴取】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【ギガタブの使用体験】</p> </div> </div>

(3) 現地視察による調査

令和3年11月10日、ICT研究協力校である扇田小学校において、ギガタブを活用した授業の取組に関する現地視察を行うとともに、ライトポート中央において、児童生徒のライトポートにおける活動状況と支援体制について現地視察を行った。

〈詳細は視察報告書を参照〉

調査目的	<p>1 扇田小学校 ICT研究協力校の授業におけるギガタブの活用状況を視察し、GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境の進捗状況や課題を調査し、今後の施策展開に生かす。</p> <p>2 ライトポート中央 ライトポートにおける生徒の活動状況を視察し、本事業の役割や成果を検証するとともに、課題や今後の事業展開について調査を行う。</p>
調査項目	<p>1 GIGAスクール構想に向けたICT研究協力校の取組み状況について（現地視察）</p> <p>2 ライトポートにおける児童生徒への支援に係る活動状況について（現地視察）</p>
現地視察の様子	<p>1 扇田小学校</p>   <p>【オンライン授業】</p> <p>【ICT支援員による授業支援】</p> <p>2 ライトポート中央</p>   <p>【学習を行う児童生徒】</p> <p>【ライトポートの現状と課題を聴取】</p>

2 つくば市の取り組み事例の調査

〈詳細は視察報告書参照〉

令和4年1月24日、Web会議サービス「zoom」を使用し、オンライン方式によりつくば市を視察し、ICT教育について調査した。

〈詳細は視察報告書を参照〉

調査目的	本市においては、小中学生に1人1台のタブレット端末を配備し、GIGAスクール構想に向けて、端末の活用方法を模索し、研究を進めているところである。 当該構想の開始前から、みどりの学園義務教育学校等で先進的なICT教育を実践しているつくば市の取組について学び、本市の施策に生かす。
調査項目	1 つくばシームレス教育について
現地視察の様子	 <p>【動画資料を交え担当者から説明聴取】</p> <p>【各委員から質疑応答】</p>

III 調査の総括

令和4年3月8日、当委員会において、年間調査テーマに基づく1年間の調査の総括として、委員間で意見交換を行い、次のとおり意見が出された。

主な意見

- ・市内小学校におけるギガタブの活用については、ＩＣＴ研究協力校を視察させていただいたので、先進的な取組状況を確認することができたが、そこまで活用が進んでいない学校もあると思われるので、その状況も把握することで、課題や質の向上に向けた取組を提案していく感じたので、そういう視点も踏まえて今後の活動に生かしていきたい。
- ・教員がギガタブを活用した授業ができなくて困っているということを現場から聞いているので、この点に関しては校内研修が必要なのではないかと感じた。この取組は始まったばかりで大変かとは思うが、いざ授業をしていて、教員が迷ってしまったら、子供にすごく影響があると思うので、そういったことにならないよう、教員の能力向上に向けた取組をしていただきたい。
- ・普段視察が難しいライトポートを視察することができ、通っている児童生徒の様子を見て、現場の指導員の生の声を聞くことで課題の共通認識を持てたのは貴重な経験であった。今後はフリースクールとの連携についても調査していくけれど感じた。学校におけるＩＣＴの活用では、教員の働き方として、この取組を軌道に乗せるためにはいろいろな準備や負担がかかっているようなところもあると思うので、今後軌道に乗ったときに、労働時間短縮になる、働き方改革に繋がっていくのかどうかということも引き続き注視していきたい。
- ・各議員が共通認識を持って同じテーマについて学んだことは、委員会活動としてとてもモチベーションが上がったと思う。

視察を行ったことで、学校におけるギガタブの活用では先進的な取組を見られた一方、活用が進んでいないところの状況も知ることで学校間の格差や課題、これが生じる背景などを理解することができる。それによりこの問題を是正するための提案をすることや、改善のための取組を求めていくことができるので、今後の活動においては、こういった視点を踏まえて委員会としての発信力を高めていく取組を行っていきたい。

・私自身もパソコンなどをよく使うが、例えば直接字を書く機会が減るとか、今後子供たちにもっと影響が出てくると思う。ギガタブなどの先進的なことを進めれば進めるほど、逆に書道であったり、そういう反対側の部分である五感を使ったり、直接体を動かしたりというところの教育がもっと必要になってくるのではないかと感じた。今後はそういう視点を持って委員会活動に臨んでいきたい。

・コロナ禍にあって、他県への視察はできなかったが、本市の取組状況を見直すことができ、本市の現状を見ることで他市の取組との比較ができるので、有意義な活

動ができたと感じた。

・小学生向けのライトポートを整備して欲しいという、現場の職員が感じている課題に対する要望と、視察により議員の感じた課題と改善策がこのように共通認識になったことや、これに向けて次年度以降に取組が進んでいくことは成果があったと感じた。学校におけるＩＣＴ教育の推進に関しては、読書も含めた基本的な教育は今まで通り行いつつ、いかにいいものはきちんとそのよさを生かして、どちらもきちんと使えるようなバランスのある教育が必要であると感じた。

・常任委員会の活動の中で、本市の状況をしっかりと確認する機会はなかなかない中で、今期は非常にそういう意味では、本市の状況を確認できたことは非常に大きな収穫であった。やはり本市の状況というのを確認しなければ他に良い事例を見てきても、なかなかそれが反映できないこともあり、先進的な取組自治体であっても本市と同じような悩みを抱えているということも認識できた。

他にも、先進市の取組状況を視察できたが、千葉市もこれに劣ることのないよう、創意工夫によって活用に向けて取り組んでいることが実感できた。教育分野におけるＩＣＴの活用に関しては、どの自治体もスタートしたばかりであるため、これから10年後の教育業界がどのように変化していくのかは非常に楽しみであり、引き続き研究していきたい。